




玉の巻  
三

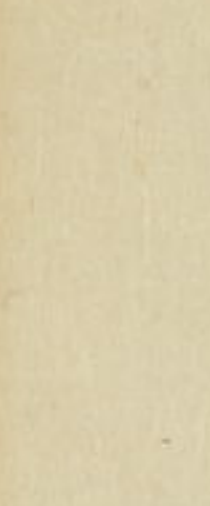
15  
1386  
4







跡といひ傳へたる地あり。又曰、人の祝ありて、古き井も有り。  
と云ふ意、湯井に、地も赤人の名に、といひ傳へたる、申すよ  
りして、<sup>ヤシバ</sup>心給てお姓と、<sup>ヤシバ</sup>心給てお姓とまがひて、赤人の姓も、<sup>心</sup>心  
とき、かく、此地の名もつきて、いひせよ、むがて、いひ、さる、はう、赤人  
も、昔より、おのく、名も、人、も、が、あ、ざ、り、い、ま、も、五、十、師、系、を、美  
柴の、今、お、ふ、い、ま、お、う、と、<sup>ヨシ</sup>神、も、さ、ざ、と、古、ハ、つ、ま、と、い、ふ、五、十  
と、ある、と、お、う、さ、バ、得、い、い、お、う、と、よ、む、べ、い、五、十、と、半、家、を、バ  
俣、と、よ、む、古、書、の、例、も、さ、バ、い、い、の、さ、う、さ、て、い、げ、る、お、り、ど、お、う、  
洞、と、い、い、と、お、う、人、も、い、い、と、い、い、れ、ど、さ、の、み、七、り、ど、お、う、い、い、と、い、い、  
か、い、つ、例、お、あ、き、申、お、地、も、ある、と、い、い、お、う、り、ら、お、う、お、う、お、り、ど、お、  


と云ふ、お、も、よ、め、い、い、お、う、い、い、の、系、と、い、い、お、う、の、よ、う、  
も、今、石、業、師、譯、お、石、業、師、と、て、寺、有、て、石、の、佛、を、ま、つ、と、る、お、う、  
地、の、上、り、お、の、づ、く、お、立、る、大、き、お、う、る、乃、お、り、お、う、業、師、と、い、い、佛、の  
か、い、い、と、い、い、つ、け、お、う、お、て、此、石、も、や、い、い、る、い、い、こ、も、お、う、り、お、う、  
佛、を、お、り、お、う、い、い、お、う、い、い、お、う、の、お、う、お、う、て、後、の、お、う、お、う、  
上、つ、代、より、い、い、あ、や、い、き、名、の、ま、い、お、う、お、う、て、い、い、お、う、系、と、い、い、お、  
負、より、お、う、い、い、お、う、お、う、の、い、い、お、う、か、の、心、も、村、の、ま、は、お、う、い、い、  
お、う、乃、つ、お、う、お、う、い、い、お、う、美、柴、系、十、之、の、ま、も、あ、ら、か、の、名、も、持  
統、天、皇、の、お、う、り、行、幸、お、り、し、を、り、の、行、宮、お、う、お、う、を、よ、め、り、と  
お、う、い、い、お、う、お、う、乃、を、お、う、跡、と、い、い、お、う、地、も、お、う、行、宮、の、跡、も、  












俗説を述ぶ。さきをとり捨つてむ。何の俗を。さういふ人。さういふ  
志う。赤人の。もをいひし。せし。る。り。や。心。と。い。ふ。所。又。古。き。俗。の  
の。あ。る。所。を。い。ふ。さ。き。の。か。つ。て。古。き。俗。の。説。と。い。ふ。さ。き。の。説。と。い。ふ。  
の。心。を。村。り。い。う。人。倭。姫。命。は。ま。ま。い。つ。つ。も。信。じ。と。い。ふ。その  
よ。う。に。説。き。つ。れ。る。も。何。う。か。倭。姫。命。の。ま。は。る。の。今。里。人。の  
い。ひ。つ。ま。な。り。ぬ。れ。り。さ。る。説。の。い。ふ。さ。き。の。行。ふ。か。よ。う  
ある。持。統。天皇。も。女。帝。に。ま。り。は。ま。る。の。い。ふ。説。倭。姫。命。は  
宮。と。信。じ。傳。へ。ら。う。と。せ。ば。さ。き。又。う。つ。て。か。の。い。ふ。説。と。い。ふ。し。  
ハ。ま。持。統。天皇。は。倭。姫。命。は。幸。ハ。書。記。を。考。へ。ふ。云。々。三。月。六  
日。辛。未。の。日。を。い。ふ。世。終。ひ。て。同。月。廿。日。乙。酉。の。日。を。い。ふ。世。終。ひ。て。終

家。子。以。行。幸。ハ。五。月。心。と。い。は。れ。る。も。誤。し。其。ハ。紀。ハ。同。年。五。月。乙。丑  
朔。庚。午。御。阿。胡。行。宮。時。進。賢。者。云。々。何。を。い。は。れ。て。其  
紫。井。裏。書。ハ。五。月。云。々。引。家。を。い。ひ。て。五。月。ハ。心。ハ。誤。し。其  
い。ふ。さ。き。の。紀。の。文。を。三。月。の。行。幸。の。時。ハ。阿。胡。行。宮。と。い。ふ。賢。を。い。ふ  
ま。り。し。者。ハ。五。月。ハ。賞。を。い。ふ。さ。き。の。説。を。い。ふ。さ。き。の。説。と。い。ふ。其。の。説。を。い。ふ  
き。て。い。ふ。べ。し。九。つ。ハ。紫。井。の。説。ハ。心。の。べ。乃。は。井。を。い。は。り。て。い。ふ  
の。さ。ハ。長。田。五。倭。姫。命。は。ま。ま。い。つ。つ。も。信。じ。と。い。ふ。その  
ハ。ま。持。統。天皇。は。倭。姫。命。は。幸。ハ。書。記。を。考。へ。ふ。云。々。三。月。六  
日。辛。未。の。日。を。い。ふ。世。終。ひ。て。同。月。廿。日。乙。酉。の。日。を。い。ふ。世。終。ひ。て。終





候。十瓶餘有之。まゝ同六年七月廿二日午時參書蓮院。万里小路阿野少將高倉少納言等同道於池。中嶋有御茶種。儀尤有興。當時數奇宗珠祇候。下京地下入道也。數奇之上手也。

後柏原天皇崩御御入棺の儀

同記云。大永六年四月十一日。天晴戌刻有御入棺事。御棺從雲龍先之有御沐浴儀。云々。為僧衆沙汰。院沙汰也。御直衣御袴御袷御念珠御血脈。範久朝臣取御服。寺各居御茵。一度授之。御冠御枕。自本副。寺授長老。泉涌長老取奉入御棺。欵如此儀。玉躰。寺授長老。泉涌長老取奉入御棺。欵如此儀。一圓為僧衆行夏之間。不見之。項之事調之由示之。

仍催御膳之事。頭辨資定朝臣參進。供御膳。先之橘。案二脚於御前。菅少納言長淳。冠衣役送。五前。次備御膳料也。

第一。第一御飯。第三供了。即撤之。此後供御手水。椀手洗御手揮等。資定朝臣先取御手洗。置御前。北面也。先例以西。南為御前。欵。然而此記錄所御。座。分。只。一間也。為狹少之間。為北面。立御屏風。次取椀。兼。撤。入水。由許也。次取御手拭。懸御手洗。端。則。撤之。長淳取之。授以緒。云々。

西宮記云。四界祭。陰陽寮向。四界祭。以藏人所。人為使。四角祭。陰陽寮。宮城。四角祭。有使所。人以上。天下。





















まど大和をよハ、ちるまゝ一ノ家塚いづこおも多くねばいゝあ  
ん、りやつらね、かぶとりよとくはま、いふへの言見こ

飛鳥姓考

友乃飛鳥姓考の序論、是本名も、是も姓なり、浄土宗、  
是寺よりや、南は方、川系、まゝ、川系、ちるや、り、る、小山、板草、  
ま、飛鳥川乃、東は、畠中、こ、飛鳥、社、飛鳥氏の、從、こ、

植村禹言考

奈良の、所、り、足田村、こ、い、ふ、さ、ら、ふ、植村禹言、こ、い、ふ、人、あり、て、  
廣大和名勝志、こ、い、ふ、ゆゑ、三十冊、を、つ、く、ハ、せ、り、こ、い、ふ、此、人、も、ま、  
ま、い、ふ、飛鳥、姓、考、を、い、ふ、代、好、て、記、考、物、に、ま、い、れ、ら、れ、

か、中、ふ、大、和、乃、西、門、乃、ゆゑ、は、あ、ら、う、考、へ、  
こ、い、ふ、天、明、二、年、壬、寅、二、月、廿、七、日、に、み、や、かり、ぬ、く、傳、ふ、ま、  
い、も、さ、が、う、ひ、ま、で、一、夜、を、こ、い、ふ、有、き、は、こ、い、ふ、ゆゑ、ま、ま、  
の、こ、い、ふ、も、い、ふ、考、へ、え、ら、わ、り、も、い、ふ、か、ら、り、ま、

あまひといふ雀

尾張、西、人、の、い、ふ、く、尾、張、美、濃、さ、ら、ふ、秋、の、ころ、田、面、ハ、廿、三、ナ、を、  
かり、づ、い、く、む、ま、も、む、ま、ま、つ、稻、を、ま、む、い、ふ、あ、ま、ひ、と、い、ふ、小、  
鳥、の、い、ふ、ま、の、一、ら、さ、ふ、て、よ、め、つ、の、雀、よ、り、ハ、ま、ま、つ、ち、い、ひ、さ、  
くて、嘴、ハ、下、ふ、つ、ら、う、白、き、毛、ハ、ま、ま、百、姓、ま、ま、い、ふ、い、く、い、ふ、  
ら、ま、て、又、い、ふ、あ、ま、ひ、め、が、ま、つ、ハ、こ、て、ま、つ、ら、ま、お、ひ、や、ま、ま、い、ふ、ま、ま、



神の清ゆき御さきさきと云はれ  
神佛典を説くむろの紀傳道の儒者の職りてそのまを  
書弘仁より代り日本紀私記こそこといづきも漢書の  
餘力をりて考へるのまおして神典をりてまびるり  
よつらるがぬふたのま洞ふらとまていひくはく清を  
おてりやと道の首領といはるるま説くはくは  
文ふよとてはるべきまふいづらりしはとまも皇朝のむろ乃  
儒者もまていづらるのやふお己が神ふりてはるふのなかりしを  
ふ神の清ゆきをまていづらるも清ふふままげままていづらる  
まていづらるも清ふふままげままていづらるも清ふふままげ  
まていづらるも清ふふままげままていづらるも清ふふままげ

一後、ふりては、おふ神まといふ一まを出きて、まは  
らふまるとまがしつらまづきくはるまはるなりてゆきま  
おべてのまのおまを人乃は、おまかしくなりて、神の清ゆきをま  
者もまかしくはまふくまて、文のまの中まおまおまのまぬむ  
まがふりつきて、はるハ佛ま、はるハ儒まふままおまはるま  
まていづらるは、はるまはるなりてゆきまに、近きまをなりて  
ま、又やしくは、佛まをままおまが、まていづらるまをま  
まていづらるまをまおまはるまのままていづらるまをま  
まていづらるまをまおまはるまのままていづらるまをま  
まていづらるまをまおまはるまのままていづらるまをま  
まていづらるまをまおまはるまのままていづらるまをま



此のまゝ儒ふしてさうふ神のさふ終をばこゝろとがうくの  
佛ふ終をさうしてはむがうけはちりながう。みづうゝ又儒ふ  
ながうては。えさううゝがうハ。いふぞやかくしそ又ちうにせふ  
ち。ちう儒うりう候ては。ちうまをさもや。ちうりて。はくはて  
しをさのぞかしとさる者も。ちうとほのえくをれども。  
そをさうといまがはくは。はくはをわうて。ちういで。天理陰陽  
あがうををば。わうやまう。ちうと。しをれを。例乃さか。ら乃  
さいで。ハ。さう天。系。以。帝。終。の。ちう。天。照。大。佛。神。を。ちう。つ。日。う  
う。げ。う。海。神。を。さ。一。つ。の。時。じ。と。さる。と。げ。ひ。ま。て。う。や。う。お。お。の。が  
ちう。う。れ。ん。を。り。し。と。あ。ぐ。お。説。曲。依。て。は。え。ま。ぬ。く。し。ぶ。う。た。

たわみる佛をさうなる候。みづうゝちとあがくさうハ。さう癖のせ乃  
人のさうの底う。ちうは。さうと。ちう。ひ。が。か。し。  
選子内親王は。佛。あ。  
選子内親王。ちう。系。の。い。つ。ま。と。さ。う。ち。う。ち。う。あ。お。む。ひ。て。よ。み  
あ。る。思。へ。り。い。む。と。い。と。ぬ。と。あ。さ。あ。ふ。む。ま。て。終。を。さ。の  
み。ご。な。う。河。尼。系。お。入。り。さ。て。伊。勢。ち。う。系。の。終。ま。は。ま。お。て。ハ。  
い。う。く。佛。を。忘。て。その。ま。が。は。と。ハ。河。お。い。お。ま。が。い。や。う。め。う  
あ。ら。う。さ。と。さ。あ。り。ま。あ。ら。う。佛。お。入。る。む。う。う。と。さ。う。れ。と。  
賤。き。も。が。い。と。き。も。あ。ら。う。お。い。て。佛。の。ま。を。信。を。ぬ。人。ハ。よ。ふ。一  
人。も。な。う。ら。れ。ば。い。つ。き。お。ぬ。れ。お。ま。が。飛。佛。き。う。お。と。て。歎。き。終。へ。る。お

らひるりきさきとぞ神おはしつらほつり神おは心のまをやうおかせん  
ゆその忌嫌イミキヲひめきさむさばがまてもおがしるべき日ざうぬま  
西お白ひて神おはき給ふむかりおりーいいさむしう神まがくおぞ  
育り家さそいほくもちほくもくろ宮神スメカミのいつきおていおりーまして  
ほゆきりる極樂の所依施イツキの神よきおりーられさるおてもほ  
心の肉おてさハかのづううさおがまてもつらんおともおやまのま  
きい中のめおきバオたふよみ歌りー給あべまおろげ又とさひよ  
みおあつりまこ必ス人よ後日おどハー給あまぐきまごおるをほをぢ  
まもおがまごや育りむされどけみこのまほほどがよーもあーげ  
いとどがーく神をばまをれをうてーまおがま佛のまをさふ

とまふと神おはさのまいみーきさるおハとてかほまぢをがうてむお  
かくつをまおるこまおあべてんわいひあふ申おあひまじりうを  
ぞかーまもく此を先みとまよふ大新院とやして南融天皇の  
はま天延とひりー神より後一條のみくぢは長元といふころまで  
五イウミヨおまふまうりてほよひ七すおちうねまでイツキ神おありーはじられバさバ  
おりのほ巻のよまて佛のまおこまひあまかあハぬまむくかあ  
くおがーらむもまのたうひまそハほしきりぞかーまねバまバ  
ると仲子おはむトせて西おむひておま給ひーけみこーと何や  
くもまーまひくうおほくうほつら給アしるすハ大社のほむおとま  
申のおくひおがーゆまてつをれとあがーあうておやうりらむ

又さきもまが川の神の後のつやに記さるやまらむ。

伊勢例幣使發遣参向路次事

西宮記云。伊勢使。當日早旦沐浴次修禊云々。次

参内懸生給袋於頭依召参御前近龍顏給宸筆宣

命近代加懸紙使挿笏給之挿懷中勅曰能久申進

禮一使稱唯次被仰曰宣命讀了於神前可燒之被仰

者出殿上令藏人申下可云々次到甲賀驛宿云々十

日云到鈴鹿驛宿十一日國司供給早旦浴殿次

禊就路渡鈴鹿川二渡安濃到壹志驛宿十二日云

云伊勢祇羨於下見橋退去渡櫛田川大神宮檢非違使可祇羨多氣

川禊備大神宮司下樋小川或云停鈴聲領神與國件

川在齋宮東之下見橋下極小川之別子河るめく

記之下見橋をわら下極小川の橋也此川之梯田川

多氣川をどろ西へつり齋宮北東小をつりとしから了齋

宮ハ多氣川の東をわらんをし。

諸社遷宮

同記云。諸社遷宮事。伊勢宮卅年一度云々。宇佐宮

卅年太宰府住吉卅年使神祇云々。鹿嶋香取卅年

一度。宣命料紙の色

同記云宣命料紙伊勢綠賀茂紅餘黃。

新任國司廳宜神事を先とする事

朝野群載云初任國司廳宜新司宜加賀國在廳官人雜任寺仰下三箇條。一可早進上神寶勸文。一可致其勤。又恒例神吏。一可勤仕恒例神吏。右國中。之政。神吏為先。專致如在之嚴。莫須期部内之豐穩云々。年月日。いふくへ。諸國ふて。神吏を重くせし。て。かくのみ。

福来病如蘇麻對國時軒云々大加八餘々

日本紀畧云天德三年云々今年人民頸腫世号福来病と云々。頸のぬるる。なり。より。かくいひをせし。ぬ。長元二年九月十月。ろふ。又此病ふ。る。き。

同書に應和二年八月廿日殿上侍臣設和歌負態去五月庚申夜男女房獻和歌男方負仍所為也。天德四年内裡燒亡事

同記云天德四年九月廿三日庚申今夜亥三剋内裡燒亡火出宣陽門内方北腋陣不出中隔外天皇

先御中院次御朝所頃之御職曹司定行之寮警固  
使累代珍宝多以燒失云々丑刻火止廿四日云々  
又昨夜鏡二和名加之古止古呂并大刀契不能取  
出今日依勅令搜求餘燼之上已得其實但調度燒  
損其真猶存形質不變甚為神異即大藏省韓櫃令  
奉納之十月三日縫殿大允藤文紀參申去月廿四  
日依宣旨御坐内裡賢所三所遷奉縫殿寮之間内  
記奉納威所三所一所鏡件鏡雖在猛火上而不漏  
損即云伊勢御神云二所真形无破損長六寸許一  
所鏡已漏乱破損紀伊國御神云々大刀卅八柄之

中四柄自清凉殿求出之卅四柄自温明殿求出之  
其中有節刀契七十四枚皆魚形也自背中別兩各  
有銘併全不損長各二寸余許八枚金十四枚銀五  
十枚銀塗物又有金銀漏乱一斗餘許也左近少將  
源伊涉將監藤原佐理右近少將藤原助信將監源  
時中藏人主殿助藤原為光出納雀部有方女官等  
同以祗候云々十一月四日天皇自職曹司遷  
御冷泉院應和元年十一月廿日天皇自冷泉院遷  
御新造内裏云々放生會音樂事

同記小。天延二年八月十五日。放生會。宜<sub>下</sub>仰<sub>下</sub>雅樂寮。准<sub>レ</sub>諸節會。音樂<sub>二</sub>官人率<sub>テ</sub>唐高麗樂人舞人等。從<sub>レ</sub>今年。永<sub>中</sub>供<sub>中</sub>彼會者。又仰<sub>下</sub>云。宜<sub>下</sub>仰<sub>下</sub>左右馬寮十列御馬各十。足。從<sub>レ</sub>今年隔年令<sub>レ</sub>供<sub>レ</sub>奉<sub>レ</sub>彼會者云々。同記。天慶五年六月二十一日癸酉奉<sub>レ</sub>東遊走馬十列於祇園。依<sub>テ</sub>東西賊乱御賽也。夫<sub>レ</sub>和泉郡<sub>ニ</sub>於<sub>レ</sub>うふ<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>づ<sub>レ</sub>ける<sub>レ</sub>ね<sub>レ</sub>ど<sub>レ</sub>え<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>車<sub>も</sub>ま<sub>や</sub>ふ<sub>る</sub>。あり<sub>ら</sub>と<sub>け</sub>る<sub>ハ</sub>祭<sub>日</sub>。つる<sub>ま</sub>ん<sub>ぢ</sub>ら<sub>は</sub>ま<sub>ま</sub>と<sub>は</sub>く<sub>ハ</sub>車<sub>は</sub>ふ<sub>り</sub>と<sub>る</sub>。を<sub>え</sub>て<sub>よ</sub>そ<sub>り</sub>と<sub>い</sub>ふ<sub>と</sub>り<sub>り</sub>。十列<sub>係</sub>氏<sub>地</sub>が<sub>り</sub>る<sub>を</sub>ふ<sub>り</sub>と<sub>る</sub>。

ある人<sub>り</sub>は<sub>く</sub>く<sub>ハ</sub>改<sub>か</sub>く<sub>と</sub>い<sub>ふ</sub>ま<sub>が</sub>と<sub>し</sub>か<sub>く</sub>ハ<sub>三</sub>韓<sub>の</sub>こ<sub>と</sub>小<sub>て</sub>そ<sub>の</sub>つ<sub>ま</sub>とい<sub>つ</sub>ハ<sub>申</sub>く<sub>お</sub>得<sub>じ</sub>。多<sub>葉</sub>葉<sub>十九</sub>小<sub>三月三日</sub>。多<sub>葉</sub>葉<sub>主</sub>の<sub>方</sub>に<sub>漢</sub>人<sub>も</sub>船<sub>を</sub>こ<sub>の</sub>へ<sub>て</sub>つ<sub>ら</sub>お<sub>云</sub>今日<sub>ぞ</sub>と<sub>が</sub>せ<sub>こ</sub>危<sub>く</sub>づ<sub>ら</sub>を<sub>よ</sub>新<sub>た</sub>く<sub>葉</sub>お<sub>入</sub>り<sub>漢</sub>ハ<sub>は</sub>の<sub>や</sub>と<sub>よ</sub>免<sub>ども</sub>け<sub>ら</sub>ふ<sub>て</sub>ハ<sub>あ</sub>や<sub>人</sub>と<sub>ハ</sub>訓<sub>べ</sub>く<sub>と</sub>つ<sub>ら</sub>必<sub>か</sub>く<sub>し</sub>。又<sub>日</sub>葉<sub>同</sub>葉<sub>遣</sub>唐<sub>使</sub>葉<sub>系</sub>系<sub>乃</sub>光<sub>清</sub>河<sub>マ</sub>リ<sub>と</sub>入<sub>る</sub>葉<sub>系</sub>系<sub>太后</sub>の<sub>所</sub>長<sub>あ</sub>の<sub>う</sub>ら<sub>り</sub>。此<sub>コ</sub>吾<sub>子</sub>乎<sub>韓</sub>國<sub>邊</sub>遣<sub>とい</sub>ふ<sub>言</sub>つ<sub>り</sub>。同<sub>副</sub>使<sub>大</sub>伴<sub>胡</sub>麻<sub>呂</sub>宿<sub>祿</sub>を<sub>饑</sub>せ<sub>る</sub>あ<sub>ら</sub>も<sub>韓</sub>國<sub>亦</sub>由<sub>伎</sub>多<sub>良</sub>波<sub>之</sub>互<sub>と</sub>つ<sub>り</sub>。く<sub>ら</sub>く<sub>唐</sub>國<sub>を</sub>韓<sub>國</sub>と<sub>お</sub>る<sub>ハ</sub>共<sub>お</sub>か<sub>く</sub>とい<sub>ふ</sub>あ<sub>ら</sub>ふ<sub>を</sub>つ<sub>ら</sub>く<sub>ら</sub>く<sub>唐</sub>字<sub>派</sub>用<sub>あり</sub>。あ<sub>ら</sub>の<sub>る</sub>つ<sub>ら</sub>く<sub>ら</sub>く<sub>を</sub>や<sub>。</sub>









えりて細流小さかしくしるるまことほせりしるる今の  
せうと美濃の言にさういふとつてさなふてあてもか  
りて不定むやうはとつてふもいふまじきまはか  
ふふよむをさういふまじきまはか  
勢のおの置りしるるさなふてか  
さこまらやうとつてさなふてさく  
とれり。

陵王の舞手名

體源抄とつて樂はる河にさなふてさく  
序一帖。此内有各別名。日搔返手。擗翻手。青鈴返手。

甬走手。又膝卷。小膝卷云々。とるしるる。陵王の舞の手は  
名もいけ申ふ。甬走とつてさなふてさく。但字附をきハ。甬ハ踊りて。さな  
ふてさく。いけ申ふ。いけ申ふ。

下樋小川

停務下樋小川。右飯高郡との堺。左飯高  
郡との飯野郡との堺。右領との堺。左領との堺。今ハさういふ  
つ首はさなハ。今ハさなハ。東北又在。飯高郡の細波平生  
大に津原。飯高郡乃飯田。入信ありとつて村を建てて。  
舟もいふとつて。今ハさなハ。三波。よるさなハ。







萬葉集畧解 千蔭夫人著 全三冊

年々隨筆 石原先生著 初帙三冊

江戸職人歌合 同右 全二冊

臣連二造考 同右 近刻

冠位通考 同右 嗣出

宰相通考 同右 近刻

尾張の家法 同右 近刻

志々木乃物語 六樹園夫人著 全二冊

和名抄 大須本 全一冊

俳諧歳時記 著作堂先生著 全二冊

玉勝間四篇 本居夫人著 全三冊

同 五篇 同右 全三冊

義濃の家法 同右 全五冊

同 折添 同右 全三冊

地名字音轉用例 同右 全一冊

歷朝詔詞解 同右 全五冊

葛花 同右 全二冊

参考熱田大神縁起 全一冊

萬我孫子 市川先生著 全一冊

遷宮物語 菊谷先生著 全三冊

